

KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

KATO PRO

TONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD



AUTOBACS SUPER GT 2019 series Round.3 SUZUKA GT 300km RACE

開催サーキット：鈴鹿サーキット
予選：5/25(土) 晴れ
決勝：5/26(日) 晴れ

スピードは存分にみせたが、26位と望まぬ結果となってしまった第2戦富士から約3週間。Modulo Drago CORSEは、序盤戦の締めくくりとなる第3戦鈴鹿に挑んだ。Honda NSX GT3とはそこまで相性がいいコースではないが、Hondaのホームコースであり、是が非でも上位を目指したいレースだ。

公式練習

5/25(土) 8:50~10:15 (専有 10:15~10:25) 天候：晴れ コース：ドライ
ベストタイム：道上龍選手 1'59.898 大津弘樹選手 1'59.813 21番手

早朝から多くのファンで賑わった第3戦鈴鹿の予選日。ただこの週末は搬入日から季節外れの猛暑に見舞われ、予選日となる5月25日から気温が30℃と越える暑さとなった。これまでの開幕2戦が雨がらみで、晴天のレースは望まれるところではあったが、それにしても5月とは思えぬ暑さに、タイヤの温度レンジが懸念された。

午前8時50分からスタートした公式練習では、チームはタイヤを中心にメニューを進めていった。まずは道上がステアリングを握りコースインすると、16周をこなし大津に交代。専有走行の時間やサーキットサファリの時間も使いながら1分59秒813というベストタイムをマークしたが、気温の高さのせいかフィーリングはいまひとつ。順位も21番手と苦しいものとなった。



KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****MiR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

公式予選

5/25(土) 14:40 ~ 15:53 天候:晴れ コース:ドライ
ベストタイム: 道上龍選手 1'57.935 (Q2) 大津弘樹選手 1'58.673 (Q1) 7番手

Q1:

午前から続く暑さのなかで午後2時40分にスタートした公式予選Q1。午前にいまひとつ調子が上がらなかった原因を究明し、午後までにさまざまな変更を加えて予選に臨んだが、それが奏功。ステアリングを握った大津弘樹は、早めにアタックを敢行すると1分58秒673というベストタイムをマークする。その後セッションは他車のクラッシュにより赤旗中断となるが、これにも影響されず6番手でQ1進出を果たした。

Q2:

見事Q1突破を果たした大津からステアリングを受け継ぎ、Q2を担当したのは道上。午後3時25分からスタートしたQ2は引き続きドライコンディションのなかで行われたが、道上はきっちりタイヤを温めると、計測3周目に1分57秒935というタイムを叩き出し、その時点で4番手につけてみせた。その後他車のタイムアップにより、道上の予選順位は7番手となるが、充分上位を狙えるグリッドを獲得した。

決勝レース

5/26(日) 14:30 ~ 天候:晴れ コース:ドライ
ベストタイム: 大津弘樹選手 (2' 01.563) 決勝結果: 7位

前日に続き酷暑のなかで迎えた5月26日の決勝日。この日もタイヤの温度レンジに懸念があったが、それはライバルたちも同様。多くのポイント獲得を目指すべく、スタートドライバーを務めた道上は、午後2時30分からの決勝レースでスタートを切った。

1周目に#4メルセデスをかわした道上は6番手につけるが、その後今週末好調の#360GT-Rにかわされひとつポジションを落とす。しかし上位陣は僅差で、序盤から#360GT-Rや#586MCを交えた6台によるバトルを戦っていった。

しかしGT500クラスのマシンが17周目に入ったとき、130Rでクラッシュが起き、レースはセーフティカー導入となってしまった。ちょうどGT300クラスでもピットインタイミングが近づくとき。これをうまく使えばポジションを上げることも可能だ。ただ、Modulo Drago CORSEのまわりはGT500クラスのピットも多く、無理に同じタイミングでピットインすると逆にタイムロスも増える。23周目のリスタート時は見送り、1周おいてからピットイン。道上から大津に交代し、タイヤ交換と給油を実施した。

後半の大津は長めのステントとなることもあり、それを意識したタイヤ選択を行い、各車がピット作業を終えるとふたたび7番手につける。中盤、34周目を過ぎる頃になると、前を行く#360GT-Rと#4メルセデスと3台が接近戦に。この戦いのなかで#4メルセデスに先行を許したが、#360GT-Rのピットインや、5番手だった#88ランボルギーニのピットインで順位はひとつ上がり、6番手で終盤を迎えた。

暑さのなかでタイヤが苦しくなっていくなか、粘りの走り続ける大津の後方からは、今度は#55NSXGT3が近づいた。同じNSX同士だったが、タイヤの違いから47周目の逆バンクで先行を許してしまう。

しかしそれでも、大津はしっかりとフィニッシュまでModulo KENWOOD NSX GT3を導き、7位4ポイントを獲得した。車両特性、そして暑さのなかでも粘り強く戦い、成果を得たこの鈴鹿での戦いは、今後に向けて大きな意味をもって来るはずだ。



KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****STONE****MIR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

監督・ドライバーコメント

チョン・ヨンフン監督

特性から鈴鹿は厳しいかもしれないと思っていましたが、予選で感触が良く7番手につけることができたので、決勝も期待していました。道上選手がバトルを展開してくれましたが、その後セーフティカーが入り、ピックアップが激しかったためピットインを指示しました。後半は残りスティントを考えたタイヤを選びましたが、グリップダウンが少し早めでしたね。今回は自分たちが見直すべき点も多く見られましたが、昨年苦戦したレースだったので、流れとしては悪くなかったと思います。次戦に繋げていきたいですね。

道上龍選手

公式練習で苦戦していたのですが、その後セットアップを進めたことで予選7番手を獲れました。決勝の序盤戦はタイヤのもちを考え、リヤが苦しくなることを見越したセットをして、それでもタイヤが苦しくなった場合は最低周回数でピットインすることを考えていましたが、後半の大津がいまひとつペースが上がりにませんでしたね。とはいえ自分たちの作戦をやり切り、予選順位から落とさず終えることができましたし、いろいろな発見ができたレースだと思います。次のタイでも表彰台に上られるよう頑張ります。

大津弘樹選手

レースでは道上選手からバトンを受け、ピット作業もすごく早くて調子良く後半スティントの序盤を戦うことができました。ただその後、タイヤのグリップ感がなくなってきてしまい、NSX GT3のストレートの速さにも助けられライバルを抑えることができていましたが、少しずつポジションを落とすことになりました。悔しい部分も多いですが、このレースを戦って見えてきた方向性がかなり多くあったので、その点では収穫が多いレースだったと思いますね。次に向けてその収穫を活かし、表彰台を狙いたいです。



Official Twitter : <https://twitter.com/34ModuloDrago>
Facebook Page : <https://www.facebook.com/DRAGO.CORSE>